

0942

第 七 三 號

陸 呑 副官ヨリ 航空本部長へ通牒  
二號淡黃葉三月四日附航ニ發來五三ニ號上申、通定  
メニルヘキニ付該表ニロロ部送付セラレ度

陸密第三六一號 昭和十四年三月十七日

右送付アリタル後左案次行相成度

陸 呑 副官ヨリ 別紙配賦表ノ箇所へ  
ニ號淡黃葉別紙ノ通定メ陸軍火薬表(陸參之部)中ニ  
追加セラレシニ付該表 部送付ス

陸密第四八三號 昭和十四年四月一日

昭和十四年五月十日 附屬品送付済

極  
祕

### 名 件

二號淡黃織表配布表

昭和  
年  
月

配布數一四三部 殘五七部

發送

歸東

0946

航二發第五三二號

二號淡黃藥制式制定ノ件上申

昭和十四年三月四日 陸軍航空本部長 東條

陸軍大臣 板垣征四郎 殿

首題火薬審査ノ結果實用ニ適スルモノト認ムルヲ以テ制式トシテ制定セラレ度左記書類相添ヘ上申ス

左記

一、二號淡黃藥審査経過ノ概要 一部

二、陸軍制式火薬表 二號淡黃藥

三、兵器秘密取扱區分表



(日本標準規格B-6)

軍械部

陸



軍

### 三種淡黃藥毒劑經過ノ概要

一、爆弾用炸薬トシテ使用セル現制式爆薬ニ比シ更ニ威力大ニシテ費  
源豊富ナル爆薬フ得ル目的ヲ以テ陸軍造兵廠東京研究所ニ於テ研  
究ノ結果<sup>硝</sup>等薬フ主剤トセル張力爆薬フ發見セラレタリ

同薬ヘ現用各種爆薬ニ比シ其ノ威力甚<sup>タ</sup>大ナルフ以テ之ヲ航空投  
下爆弾ニ採用セント企圖シ制式竝試製爆弾ニ實質シ昭和十二年三  
月及同四月東京研究所ト協同試験フ實施セリ其ノ結果爆力ハ黃色  
薬ニ比シ邊ニ大ナルモ小銃弾命中ニ依ル安全度ハ黃色薬ニ劣リ爆  
弾炸薬トシテハ安全度ヲ向上スルノ要ツ認メ其ノ研究ヲ東京研究  
所ニ委託セリ

二、昭和十二年七月及同九月陸軍航空技術研究所員立會ノ下ニ東京研  
究所ニ於テ各種案ニツキ小銃弾命中ニ對スル安全度試験フ實施シ  
タル結果黃色薬ニ過色ナキモノヲ得タリ候テ昭和十二年十一月及

四十二月ニ其ノ威力試験ヲ實行而其結果ノ下ニ實驗ノ其ノ結果  
良好ニシテ實用ニ供シ得ト固ムルソノ之ヲ三種實驗機トシ者ニ  
御式上取メルモノナリ  
其本體端ニ開メル主要試験報告該單別紙ノ通りトス

## 二號淡黃藥主要試驗報告抜萃

實驗施設報

告 報

判 決

總

## 陸軍航空技術研究所試驗報告

(昭和十二年四月  
航技報第二十八號)淡黃藥噴實驗  
第一回試驗記事

一、九二式十五挺爆彈試驗九六式十五挺銅片入「セメント」爆彈ニ淡黃藥ヲ填實セル場合ハ其ノ他ノ炸薬ノ場合ヨリモ破片活力大ナリ。然レ共九二式十五挺爆彈ニ在リテハ破片数ニ過小トナリ五瓦以下ノモノ多數ヲ生シ五瓦以上ノ破片數減少ス。銅片入「セメント」爆彈ニ在リテハ銅片ハ粉碎セス。

二、單三二式發ノ實驗ナルモ小銃彈命中ニ對スル安全度ヘ他種炸彈ヨリ遙シキモノノ如シ。

三、供試彈數僅少ナルヲ以テ確實的ナラサルモ試驗淡黃藥ハ黃色藥安瓦彈本禍藥ニ比シ爆力過カニ大ナリ。

陸軍航空技術研究所試驗報告

(昭和十二年六月  
航技報第三十一號)

判 決

一、淡黃藥噴實驗ノ微甲實包ニ對スル安全度ヘ黃色藥ヲ填實セルモノニ比シタナリ。

ニ、本彈ノ下爆彈炸藥トシテ微甲スル爲ニハ安全性ノ上ソツ必無トス。

東京研究所		通商省
送	兵研院	調査課
新日本研究所 昭和十二年七月 新日本研究所大八郎 新日本研究所ノ小説 安全度第一回試験報告 昭和十二年六月 新日本研究所大〇四〇 新日本研究所ノ小説 安全度第一回試験報告	通商省 昭和十二年七月 新日本研究所大八郎 新日本研究所ノ小説 安全度第一回試験報告	「硝子薬〇四〇」、「トリニトロ」化合物フ燃焼混合セルモ ノハ燃焼混合〇四〇メル「トリニトロ」化合物フ燃焼混合 セルモノハ燃焼混合セルモノシナ燃焼混合セルモ 安全度第一回試 燃燒報告
新日本研究所 昭和十二年七月 新日本研究所大八郎 新日本研究所ノ小説 安全度第一回試験報告 昭和十二年六月 新日本研究所大〇四〇 新日本研究所ノ小説 安全度第一回試験報告	通商省 昭和十二年七月 新日本研究所大八郎 新日本研究所ノ小説 安全度第一回試験報告	「硝子薬〇四〇」、「トリニトロ」化合物フ燃焼混合セルモ ノハ燃焼混合セルモノハ燃焼混合セルモノハ燃 安全度第一回試 燃燒報告

造東京研究兵廠所  
(續)研究所技術研究(續)

<p>(昭和十三年一月 技術報第436號)</p>	<p><u>〔昭和十二年九月 第三號〕外試驗報告</u></p> <p>研「う」四號系炸 藥ノ小銃弾命中ニ 對スル安全度第三 回試驗報告</p>	<p>判決</p>
<p>判決</p> <p>一、新爆薬ハ黄色薬ニ比シ爆力ハ大ニシテ破片效力ハ過 色ナキヲ以テ破壊威力ヲ主トスル彈種ノ炸薬トシテ 採用スルヲ適當ト認ム</p> <p>二、供試爆薬研「う」四號(一〇二)及研「う」四號(一 〇七)ノ二種ニ於テ前者ハ資源關係有利ナルを認</p>	<p>一、今回及既往ノ試驗結果ヲ綜合考察スルニ「う」四號 (一〇三)、(一〇五)及(一〇七)ハ共ニ黄色薬ニ 比シ延焼大ナルノミナラス其ノ小銃弾ニ對スル安全 性モ黃色薬ニ劣ラサルヲ以テ航空機爆彈炸薬トシテ 極メテ有利ナリ</p> <p>既中(一〇七)ヘ現在ノ設備ヲ以テ製造シ得ルノ利 アリ又(一〇二)ハ茶褐色ヲ使用セサルヲ以テ資源 上有利ナリト認ム</p> <p>二、「う」四號(一〇〇)ハ安全度及資源ニ關シテ有利 ナルモ其ノ延焼前三者ニ及ハス從ツテ威力増大ニ關 スル要求燃焼ナル航空機爆彈炸薬トシテハ其ノ成績 前三者ノ下位ニアルモノト認ム</p>	<p>判決</p> <p>(一)硝字藥四〇%ニ「トリニトロ」化合物及比較的多 量ノ「アトラニトロ」化合物ヲ燃燒混和セルモノ</p>

陸軍航空技術研究所

新爆薬試験記事

達國難ナルヲ以テ爆力ニ於テ稍ト優り且製造容易ナル  
研「う」四號（一〇セ）ヲ炸薬トシテ採用スルヲ適當  
ト認ム  
三、新爆薬ヘ之ヲ真剣式彈ニ填實スル場合ニ於テハ其ノ爆  
力稍ト過大ナルヲ以テ爆薬ヲ調和活用スル如キ弾肉ヲ  
有スル爆弾及爆管ニ對シ研究ヲ繼續スルヲ緊要ト認ム

0953

軍事秘密 昭和 年 月 日 醫密第 號

二號淡黃藥

種別	爆藥
番號	6

頁

### 第一 成分及標準組成

硝字藥	55%
茶褐藥	38%
茗亞藥	7%

### 第二 製造要綱

茶褐藥ト茗亞藥トヲ混合熔融シ之ニ硝字藥ヲ混和ス

### 第三 主要用途

爆破効力ヲ主トスル爆弾炸薬

整備區分 第一種

0954

名	稱	兵 器 秘 密 取 扱 區 分
二 號 淡 黃 藥	軍 事 秘 密	取 扱 區 分 摘 要

航二發第七九〇號

6822

參  
二  
一

二 號 淡 黃 藥 制 式 制 定 ノ 件 通牒

昭和十四年四月四日

陸軍航空本部總務部長 鈴木

陸軍省副官 國 分 新 七 郎 殿

昭和十四年三月十七日陸密 第三六一號通牒ニ係ル火薬表（修正表  
共）一二〇〇部送付ス

追而現品ハ銃砲課へ直送ス可キニ付申添フ

